

午後Ⅰ試験

問1

問1では、個人情報保護の監査を題材に、法改正による個人情報の活用に伴って生じるリスク、法改正への適切な対応としてのコントロールの識別、コントロールの適切性を確認するための監査手続及び必要な監査証拠について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問1(i)は、正答率がやや低かった。消去すべき短期保存データが漏れなく消去されていることを確認するためには、消去済みの短期保存データのリストのほかに、消去対象の全短期保存データのリストがあれば十分であり、全保有個人データのリストは不要であることを理解してほしい。

設問2は、“確認事項”について正答率が低かった。入手すべき“監査証拠”は理解できていると思われるので、指摘事項を導くためには、監査証拠を用いてどのような観点で確認すべきかを理解してほしい。

設問4(ii)は、正答率が平均的であった。短期保存データと開示データを混同していると思われる解答が散見された。本文中の各データの定義と利用目的を正確に把握してほしい。

問2

問2では、ワークフローに関わるシステムの監査を題材に、リモートワークに対応した申請書等の見直しも含めた活動を推進する上でのリスクや監査手続について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問3は、正答率が平均的であった。押印や署名を不要とする目標時期の設定を確認するという内容だけで、監査の対象・方法を示していない解答が多くみられた。監査手続としては、確認事項だけでは不十分ということを理解してほしい。

設問4は、正答率がやや低かった。申請書等のワークフロー化など、業務要件をシステムとして実現する際の手段は、幾つか考えられることが多い。その際に、それぞれの手段の特徴は何かを理解して選択する必要がある。監査人としても、適切な手段が選択されているかどうかを見極められる能力を身に付けてほしい。

設問5は、正答率が平均的であった。システムからのログを分析して、業務プロセスの改善に活用する取組は、有用な活動として普及しつつあるので、監査の観点からも理解を深めておいてほしい。

問3

問3では、システム運用業務の監査を題材に、システム運用業務を外部委託している場合の運用業務品質確保や再発防止策に関するリスク、監査の観点及び監査手続について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問1は、正答率がやや低かった。運用手順書や教育記録の閲覧といった監査技法の解答が多かった。また、再委託先の要員変更時の教育に関する解答も散見された。監査部長の指摘内容は、“運用管理規程の変更があった際”に運用品質を確保するようになっているかどうかを確認する監査手続の追加である。“C社システム管理課に確認する監査手続”について問うている設問の趣旨を理解して解答してほしい。

設問4は、正答率が平均的であった。運用手順書や障害管理データベースを閲覧する監査手続及び確認事項の解答が散見された。監査部長の指摘内容は、“保守の計画書を入手して”確認する内容であることをよく理解してほしい。